



釜山日報 1989年2月13日

## 韓日海底トンネル民間次元で本格推進

韓国と日本を連結する海底トンネル建設計画が民間次元で本格推進されている。世界平和教授協会の傘下、韓日トンネル研究会は、韓国の慶南道の巨済島と日本の唐津を結ぶ総延長 250kmの海底トンネルを、遅くとも西暦2000年以前に着工し、2015年までには完工させる計画をたて、去る86年10月から地質探査、環境影響評価などの事前研究調査活動を始めている。

このトンネルの建設経費は120兆ウォンに達すると推測されるが、国際ハイウェイ建設事業団が財政支援することが知られている。このトンネルが完工すれば一日に10トトラック10万台の分量の物量輸送が可能で、現在の韓日両国の交易量の5倍程度を受容することができる」と展望されている。

韓日トンネル研究会の釜山支部（支部長、高冠瑞・釜山水産大学教授）は、傘下に4つの部会を構成、第1部会は理念・文化・法律・経済など社会科学的な準備業務を受け持ち、第2部会は地形・地質・水理の研究、第3部会は路線・設計・施工、第4部会は環境・気象・海象の研究を受け持ち、各該当分野の専門家20余名が研究活動を始めており、昨年8月から慶南道の巨済郡内の6地点に対する地質調査の試錐作業を始め、先月31日に完了した。

トンネル研究会によれば、このトンネルは韓国の巨済島から日本の対馬～壱岐島～唐津を直線で連結し、両端は観光の効果を高めるために橋梁を設置する。

トンネルの形態は自動車直接走行できるのが望ましいが、トンネルが長く海底のため換気の困難が多く、電気自動車、集電式電気自動車、電気鉄道、モノレールなどの形態も検討されている。

電気鉄道方式を採択すれば、日本まで1～2時間ほどで到着することができ、浮上式リニアモーターカーは時速500km以上の速度を出すことができ、30分で走破できる。一方、韓国側と共同研究作業を始めている日本側の日韓トンネル研究会は、去る81年から日本のお金で4千億円を用いて、試錐、地表探査、地図作成、音波探査、磁気探査などを始めており、去る85年7月に起工式をして唐津から壱岐島まで探査トンネル400mを掘っている。日本側は去る87年完工した青函海底トンネル（本州～北海道）工事を受け持った佐々保雄氏が会長席を引き受けている。水産大の高教授は「韓日海底トンネルは国際ハイウェイ建設事業の一環として推進されており、理念と宗教の差異によって分裂した人類を一家族にまとめるため構想されたものである」と趣旨を説明した。

世界平和教授会傘下の研究会で21世紀前着工  
巨済－唐津 250km連絡………経費 120兆